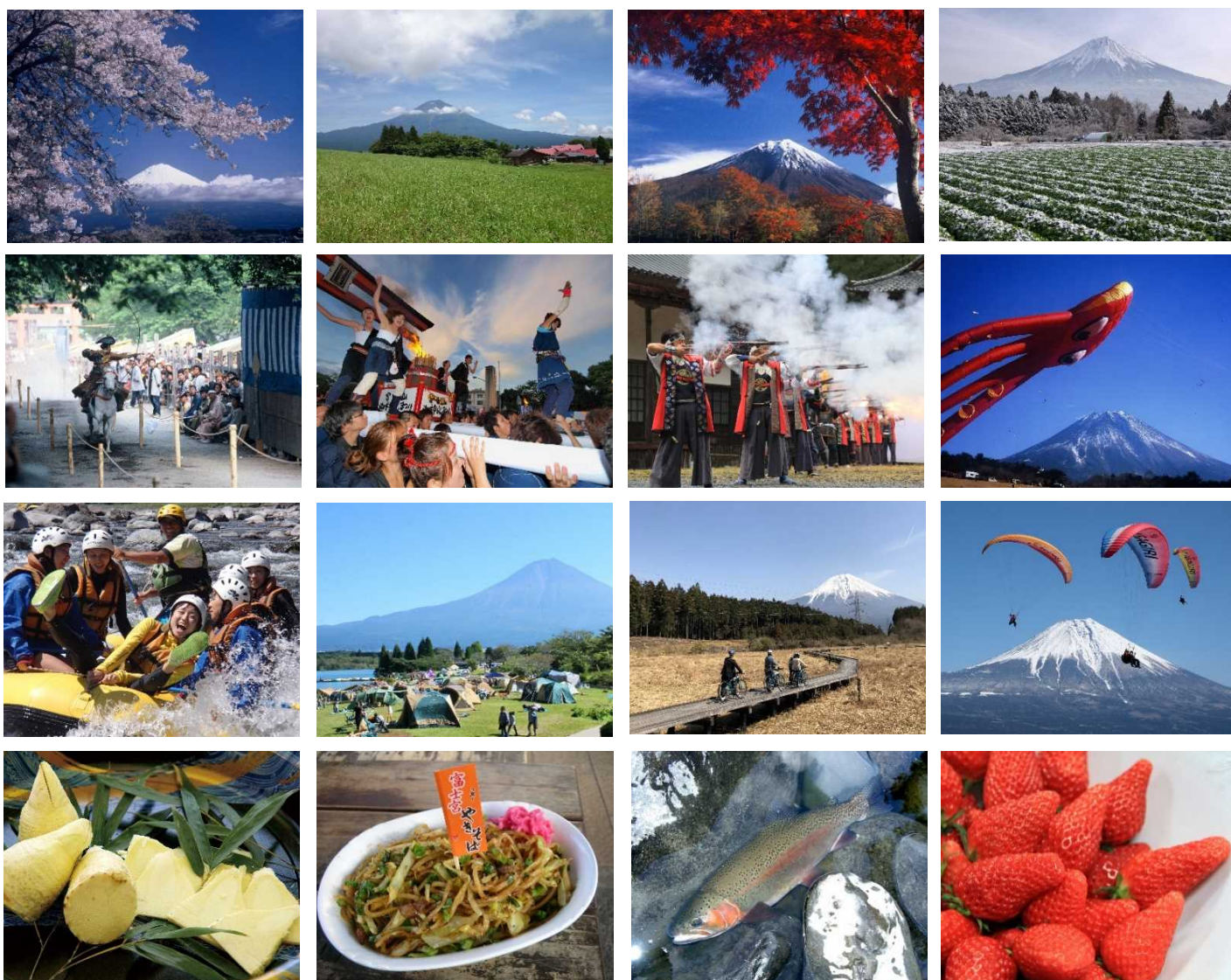


# 第 4 次

# 富士宮市観光基本計画

2022年～2025年



## 目次

<b>第1章</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>1</b>
第1節	計画策定の趣旨.....	1
第2節	本計画の位置づけ.....	2
第3節	本計画の期間.....	2
<b>第2章</b>	<b>観光の現状と課題</b> .....	<b>3</b>
第1節	観光を取り巻く現状.....	3
第2節	前期計画の振り返り.....	17
第3節	富士宮市の観光振興における課題の総括と今後の方向性.....	19
<b>第3章</b>	<b>観光振興の進め方</b> .....	<b>21</b>
第1節	観光振興の目的.....	21
第2節	観光振興の基本的な考え方.....	21
第3節	計画の目標数値.....	23
第4節	多様で魅力的な観光の楽しみ方を生み出す具体的な方法.....	24
第5節	施策の体系.....	26
<b>第4章</b>	<b>計画における施策の展開</b> .....	<b>27</b>
政策1	自然の楽しみ方の多様化と磨き上げ.....	27
政策2	歴史・文化を生かした消費・周遊の促進.....	29
政策3	自然の魅力を生かしたプロモーション・コンベンション.....	30
政策4	自然を楽しむ滞在型観光地としての基盤づくり.....	31
<b>第5章</b>	<b>計画の推進体制と進捗管理</b> .....	<b>33</b>
第1節	計画の推進体制.....	33
第2節	計画の進捗管理.....	33

# 第1章 はじめに

## 第1節 計画策定の趣旨

富士宮市は、世界遺産である富士山の恵みを受けながら、富士山本宮浅間大社の門前町として発展してきたまちです。この地域には、世界遺産富士山を始め、清涼な水や空気、景観、豊かな自然環境、歴史・文化、食といった豊富な資源があり、富士宮市はこの魅力を磨き、伝えることで、観光振興に努めてきました。

平成18年度に、これらの豊富な観光資源をもって観光立市の実現を目指すことを目的に、5か年計画である第1次富士宮市観光基本計画を策定しました。その後も時代の変化に沿って計画の見直しを行い、第2次・第3次と合わせてこれまで16年間計画を推進してきました。

第3次富士宮市観光基本計画では、朝霧高原エリア、白糸の滝・上野北山エリア、富士山エリア、芝川エリア、街中おもてなしウェルカム特区の5つのエリアを設定し、着地型観光の推進、スポーツイベントと連携した観光振興の取組、そして、インバウンド事業に対応するために情報発信力の強化を図ってきました。

しかし、令和2年度には、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、全国的に緊急事態宣言が発令されるなど、長期にわたって感染症の影響が続く事態となりました。外出自粛や県境をまたぐ移動の制限などによって人の流れが止まり、国内・国外共に旅行者数は大きく減少し、コロナ禍において、観光業は特に大きな打撃を受けました。

一方で近年、キャンプやトレッキング等がブームとしての盛り上がりを見せていることや、コロナ禍において密を避けたアウトドア観光や自然観光地への関心が高まるなど、観光ニーズの変化も見られます。

こうした状況の中で、世界遺産富士山を中核とした本市の観光資源を更に磨き上げ、新たな魅力を創出し、富士宮市が目的地として選ばれる観光地となり、将来にわたって魅力的な地域として持続できるように、第4次富士宮市観光基本計画を策定します。

富士宮市では本計画を通じ、観光関連事業者、観光支援団体などの関連主体、そして地域住民の皆様と観光振興の方向性を共有し、共に富士宮市の価値を高め、観光誘客と地域経済の活性化を目指します。



富士山本宮浅間大社



神田川

## 第2節 本計画の位置づけ

---

本計画の上位計画である第5次富士宮市総合計画後期基本計画においては、「訪れる人に感動を与えるおもてなしのまち（観光）」を目指し、以下の基本方針と3つの施策を示しています。

### 第5次富士宮市総合計画後期基本計画

#### ■基本方針（観光）

富士山を生かした新たな観光企画づくりに努め、ソーシャルネットワーキングサービスを活用した広告・宣伝を展開し、イベントや体験型観光を生かし、国内外から観光客の誘客を図る。

#### ■3つの施策

観光基盤の整備、観光誘客の推進、サイクルツーリズムの推進

本計画は、以上の基本方針を踏まえつつ、観光関連分野の個別計画として定めるものです。

観光を取り巻く現状や市の観光の課題等を踏まえた上で、今後の目標数値、展開する施策等を定めた継続性のある計画として策定します。

また、サイクルツーリズムの推進に関しては、関連計画である「富士宮市自転車活用推進計画」と連携・整合を図りながら、展開する施策を定めます。

## 第3節 本計画の期間

---

第5次富士宮市総合計画後期基本計画に合わせ、令和4年度から令和7年度までの4年間で第4次富士宮市観光基本計画の対象期間とします。

## 第2章 観光の現状と課題

### 第1節 観光を取り巻く現状

富士宮市や全国の観光を取り巻く現状や動向から、課題を整理します。

#### 1 全国的な動向

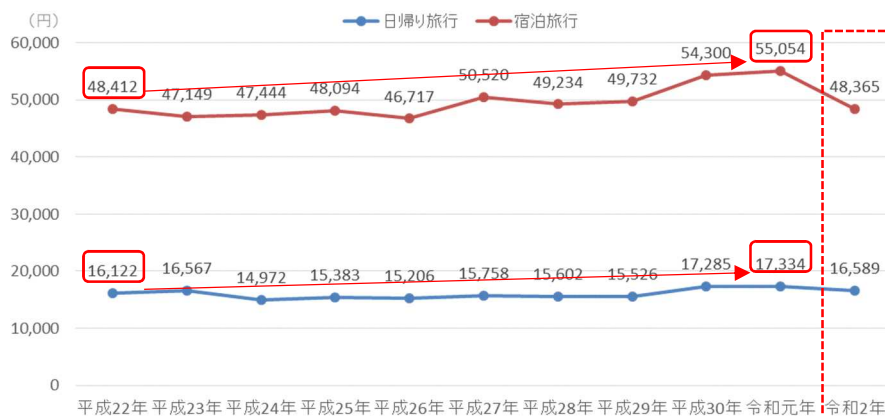
- ・ここ10年において、日本人の国内旅行者の数は、横ばいからやや減少傾向にあります。(図1)
- ・一方で、1人1回当たりの旅行単価は、増加傾向にあります。(図2)

図1 日本人国内延べ旅行者数



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

図2 日本人国内旅行1人1回当たり旅行単価

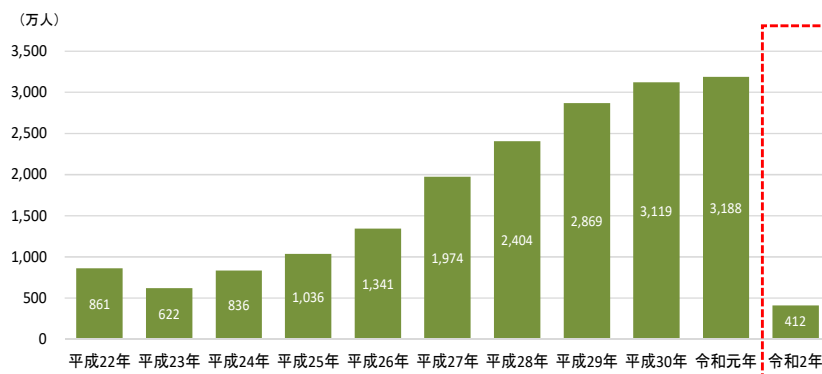


出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

- ・旅行回数が減る中、選ばれる観光地になるための競争はさらに厳しくなると見込まれます。
- ・旅行1人1回当たりの消費額は上がっており、旅行者が高単価のコンテンツを購入する可能性が従来より高くなっています。

- ・これまで増加を続けていた訪日外客数は、近年やや頭打ちの状態にありましたが、令和2年に新型コロナウイルスの感染拡大の影響により激減しました。(図3)

図3 訪日外客数



出典：JNTO「訪日外客数統計」

■新型コロナウイルス感染拡大以降の観光業界における主な変化

○単価を上げる必要が生じている

- ・密を避ける観点からの（ツアー、宿泊、飲食等の）受入人数の抑制
- ・消毒等の感染症対策に掛かるコストの増加

○観光に対する顧客ニーズが変化している

- ・都市型観光から、開放的な地方や自然豊かな地域への観光ニーズの変化
- ・働き方や休暇取得の多様化による旅行時期や期間の柔軟化
- ・お土産のネット購入やバーチャル体験など、オンライン消費の拡大

- ・観光事業を継続するには、単価を上げる必要が生じています。
- ・新型コロナウイルス感染拡大後の新しい観光ニーズに対応する必要があります。



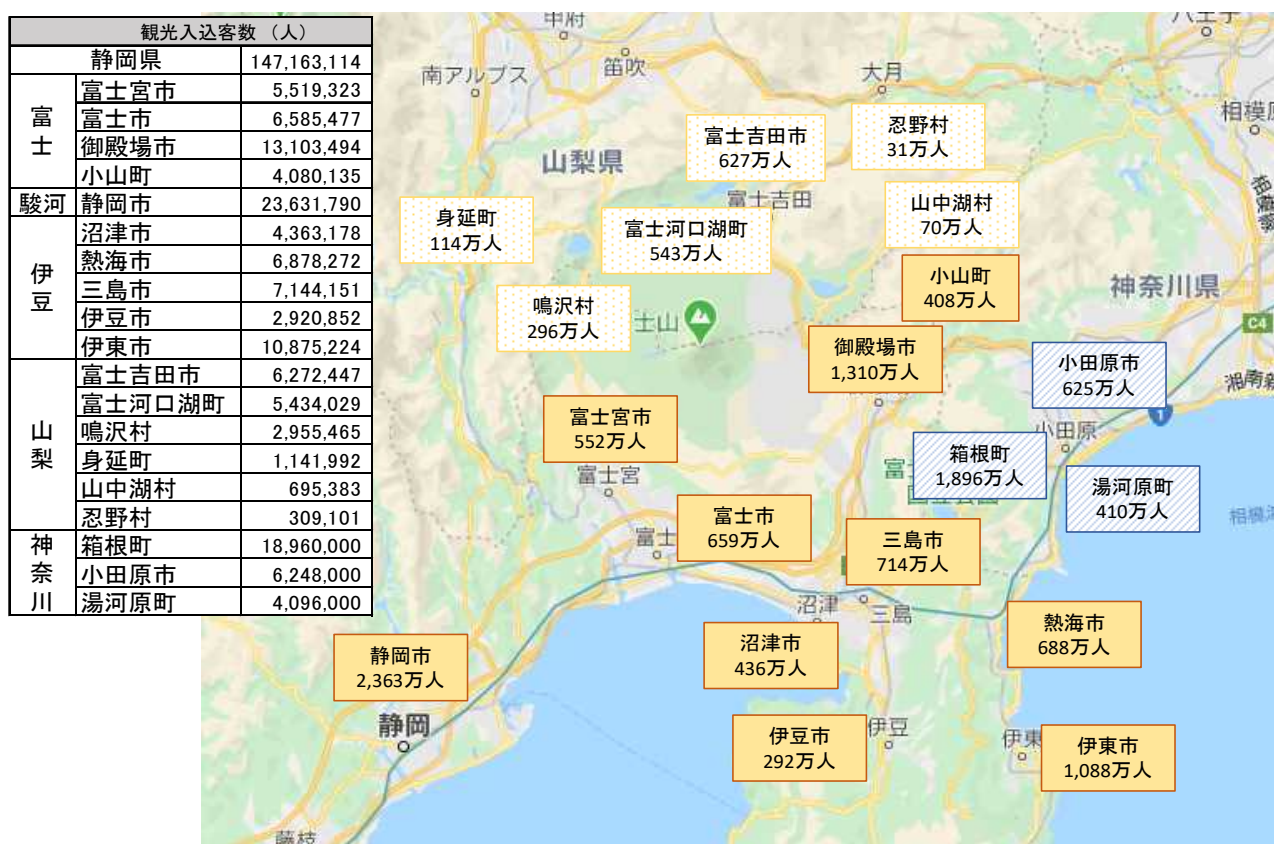
富士山からの御来光

## 2 富士宮市とその周辺の概況

### (1) 周辺地域との入込・宿泊の比較

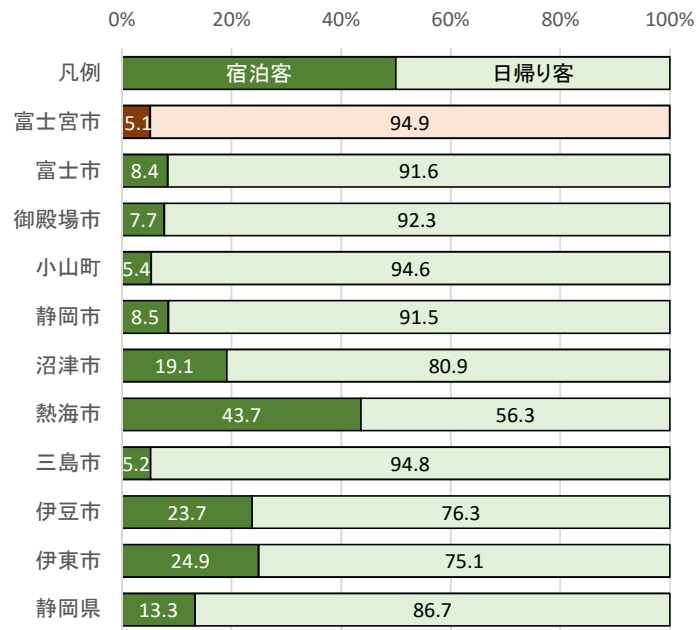
- ・富士山周辺の入込客数を見ると、静岡市（2,363万人）、箱根町（1,896万人）、御殿場市（1,310万人）、伊東市（1,088万人）が年間1,000万人以上となっています。富士宮市の入込客数は年間552万人で、沼津市（436万人）や富士河口湖町（543万人）とほぼ同規模になっています。（図4）
- ・日帰り・宿泊の割合を他地域と比較すると、富士宮市は宿泊客の割合が低く、滞在拠点になっていないことが伺えます。（図5）

図4 富士山を取り巻く主な観光地の観光入込客数（令和元年度／令和元年）



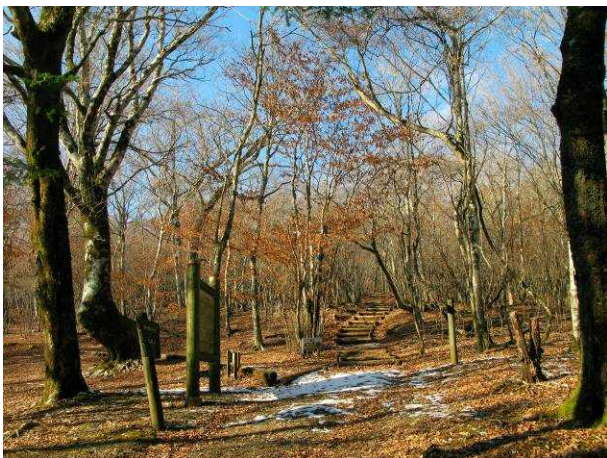
出典：静岡県観光交流の動向（令和元年度）、山梨県観光入込客統計調査（令和元年）、神奈川県入込観光客調査（令和元年）

図 5 周辺地域との日帰り／宿泊客割合の比較（令和元年度）



出典：静岡県「観光交流の動向」（令和元年度）

- ・ 富士山周辺エリアにおいて、富士宮市は一定の入込客数があるものの、宿泊客よりも日帰り客の割合が圧倒的に高く、立ち寄り地点としての「通過型観光地」になっている傾向があります。



富士山自然休養林 西臼塚遊歩道コース



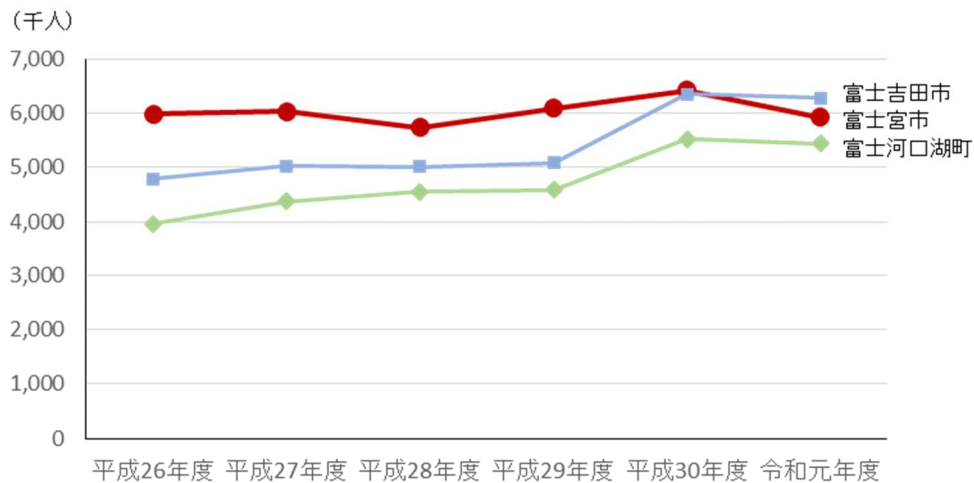
富士山天母の湯



## (2) 富士山世界遺産登録後の富士山周辺地域における入込客数の比較

- ・富士登山やその山麓の自然・景勝地を楽しむことができる地域として、山梨県の富士吉田市・富士河口湖町と本市の入込客数を比較すると、富士山世界遺産登録（平成 25 年）以降、山梨県側の 2 地域では入込客数が増加傾向にあります。この期間において本市では大きな増減がありません。（図 6、図 7）

図 6 富士山世界遺産登録後の入込客数の推移

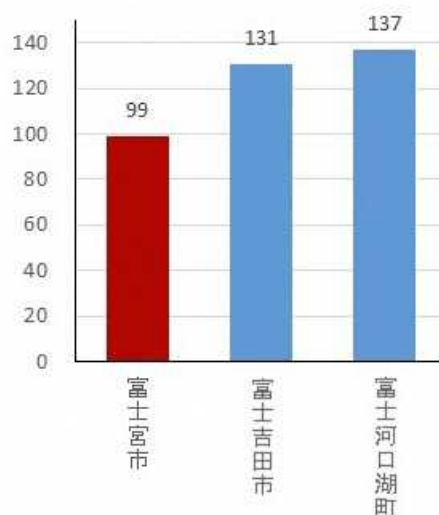


平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度 平成30年度 令和元年度

出典：富士宮市統計、山梨県観光入込客調査報告

(山梨県観光入込客調査報告は暦年集計のため単純比較はできないが、比較の都合上富士宮市統計と同一グラフに示した)

図 7 入込客数の推移（平成 26 年度を 100 としたときの令和元年度の指数）



出典：富士宮市統計、山梨県観光入込客調査報告

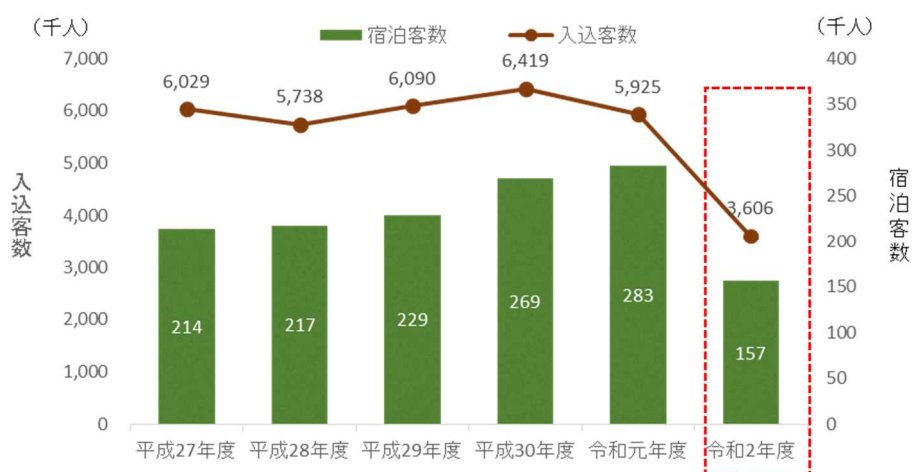
- ・富士山の世界遺産登録を機として増加傾向にある富士山観光の顧客を、市内に十分に呼び込めていないものと見られます。

### 3 富士宮市の置かれた概況

#### (1) 入込客数と宿泊客数の推移

- ・入込客数には増減がありますが、宿泊客数は令和元年度まで増加傾向を続けていました。  
(図 8)
- ・近年市街地でビジネスホテル等の開業が続いており (H27 スーパーホテル、H29 キャビンハウスヤド、H30 くれたけインプレミアム)、市街地の宿泊キャパシティは増加しています。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により入込客数・宿泊客数共に大きく減少しました。

図 8 富士宮市の入込客数・宿泊客数



出典：富士宮市統計

- ・市街地でホテルが開業し、宿泊キャパシティが増加したことから、市内宿泊客も増加傾向にあり、これまで宿泊しなかった顧客が市内に宿泊するようになって見られます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響による入込・宿泊客の減少が顕著に現れています。



流鏝馬まつり



富士山御神火まつり



富士宮まつり

## (2) 入込客の消費額

富士宮市を訪れる入込客1人当たりが市内で消費する額は、日帰り旅行者で約3,700円、宿泊旅行者で約8,500円となっています。(表1)

表1 入込客1人あたりの平均旅行消費額(富士宮市内での消費)

	日帰り旅行者	宿泊旅行者
平均旅行消費額(円)	3,730	8,451

出典：富士地域観光振興協議会「平成30年度 訪問客アンケート調査」

※日帰り/宿泊の区別は、宿泊場所が市内であるか市外であるかに関係なく、その旅行が日帰り又は宿泊を伴うものであるかを示す。したがって、「宿泊」旅行者の平均旅行消費額は、富士宮市内に宿泊しなかった(宿泊費等を市内で支払わなかった)ケースも含めて算出される。

- ・市内での消費額の状況から、本市が時間とお金をかけて滞在する観光地ではなく、通過型の観光地になっていることが考えられます。
- ・入込客の市内消費額を上げていくためには、日帰り旅行者よりも消費単価の高い宿泊旅行者を増やしていくことや、市内での消費をこれまで以上に促していくことが重要になると考えられます。



日本酒



にじます刺身



新稲子川温泉ユー・トリオ



ゴルフ場

### (3) スポーツ・レクリエーション観光の状況

- ・市内では定期的に各種スポーツ大会や合宿、イベント等が開催されています。参加者数のデータが取得できている大会等は一部ですが、こうした大会等によって一定数の合宿参加者を獲得しています。(表2)
- ・スポーツ大会等以外にも、観光振興及び地域振興を推進し、ウォーキング人材の育成を図るため、世界遺産富士山の構成資産や観光資源を生かした観光ウォーキング事業を推進しています。

表2 市内で開催される主なスポーツ大会に伴う市内合宿参加者数(人)

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
富士宮市長杯・稲山カップ 中学校女子バレーボール大会	862	857	865	909	882	中止
富士山カップ 全国少年・少女サッカー大会	7,274	7,389	7,370	7,421	7,402	中止
富士山女子駅伝	228	235	233	244	245	249

出典：富士宮市調査

- ・スポーツ大会やスポーツ合宿の実施によって、富士宮市は一定規模の宿泊客数を獲得しています。
- ・大会等の開催・誘致に当たり、営業、会場手配、宿泊施設の確保等についての市内連携を強化することで、更に顧客数を増やすことができる可能性があります。

## 4 市内各観光エリアにおける旅行者の動向

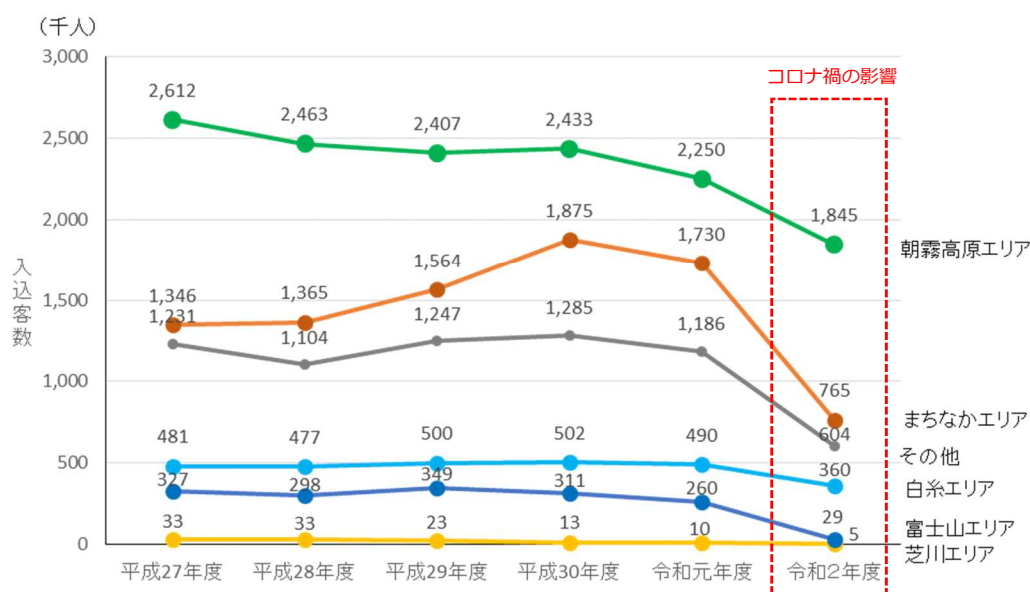
### (1) 市内の観光エリア

- ・富士宮市が市内入込客数を把握している観光エリアごとに、旅行者の状況を整理します。

＜富士宮市の観光エリア＞	
・朝霧高原エリア	朝霧高原周辺、田貫湖周辺、富士養鱒場、ゴルフ場
・まちなかエリア	富士山本宮浅間大社周辺
・白糸エリア	白糸の滝周辺
・芝川エリア	芝川周辺
・富士山エリア	富士山五合目周辺、登山客
・その他	入浴施設、産業観光、やきそば店、イベント、宿泊客

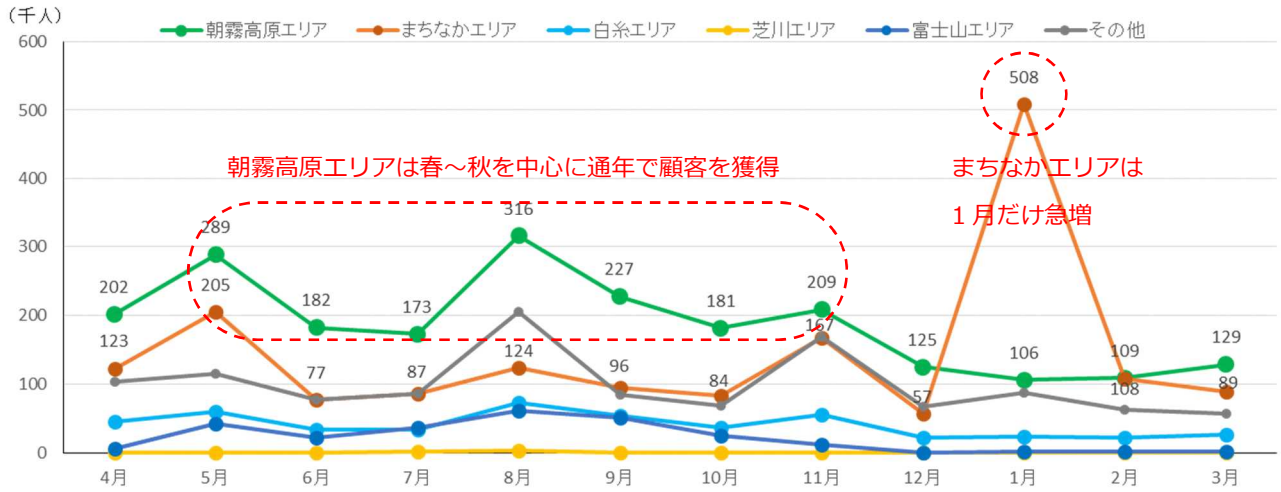
- ・観光エリアごとに入込客数の年度推移を見ると、朝霧高原エリアとまちなかエリアが特に多くなっており、コロナ禍直前の令和元年度では、朝霧高原エリアが225万人、まちなかエリアが173万人となっています。コロナ禍の令和2年度には、各エリアの入込客数が大きく減少していますが、まちなかエリアが大きく落ち込んでいるのに比べ、朝霧高原エリアの減少は緩やかになっています。(図9)
- ・令和元年度の月別の推移を見ると、朝霧高原エリアでは春から秋を中心として年間を通じて多くの観光客が訪れていますが、まちなかエリアでは特に1月に入込が集中しています(参拝客と見られる)。(図10) また、コロナ禍の令和2年度では、朝霧高原エリアにおいて夏以降ほぼ前年並みの入込客数に回復していることが分かります。(図11)

図9 市内観光エリアごとの入込客数の年度推移



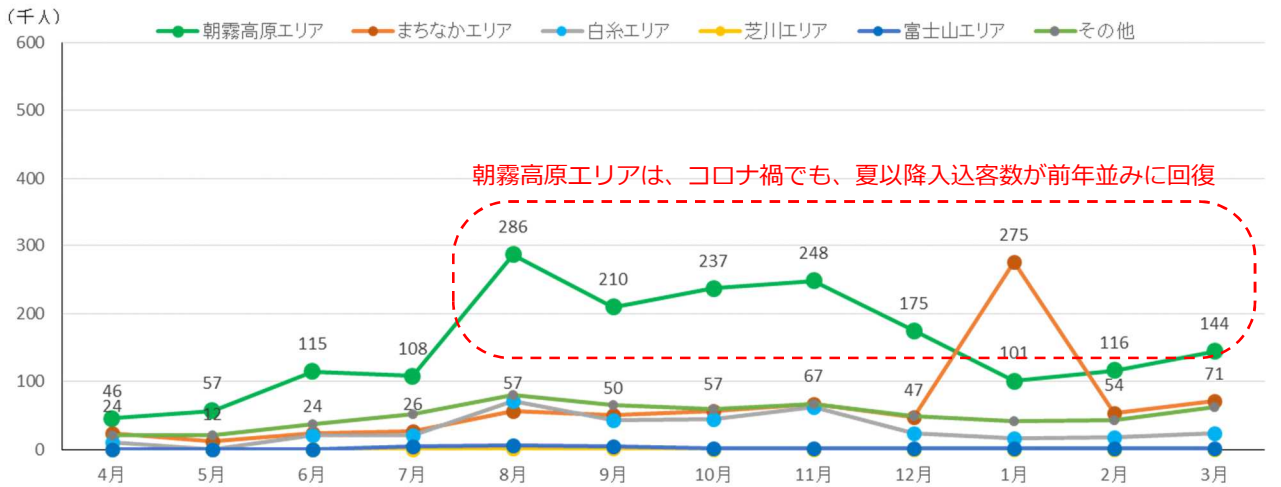
出典：富士宮市統計

図 10 市内観光エリアごとの入込客数の月別推移（令和元年度）



出典：富士宮市統計

図 11 市内観光エリアごとの入込客数の月別推移（令和2年度）



出典：富士宮市統計



朝霧高原



神田川ふれあい広場

## (2) 「朝霧高原」と「浅間大社」の入込客の比較

本市でも入込の多い「朝霧高原エリア」と「まちなかエリア」の入込客の動向を詳細に確認します。用いたデータは、富士地域観光振興協議会が平成30年度に実施した「訪問客アンケート調査」から富士宮市におけるデータを抽出したもので、同調査において「朝霧高原」と「浅間大社」を訪れたそれぞれの入込客が、市内でどのような観光動向をとっていたかを比較します。

### ■入込客の動向

- ・朝霧高原入込客の約60%は「白糸の滝」を訪れているほか、約30%は市街地にある「富士山本宮浅間大社」にも足を延ばしています。(図12)
- ・朝霧高原入込客の約90%が「自家用車」で移動しています。(図13)
- ・浅間大社入込客の42.8%が「静岡県富士山世界遺産センター」を訪れているが、隣接する「お宮横丁」を訪れているのは27.6%に留まっています。また「富士宮市街地」の来訪は7.5%とさらに低く、浅間大社入込客はあまり市街地を周遊していません。(図14)
- ・浅間大社入込客の約60%が「自家用車」で移動しています。(図15)

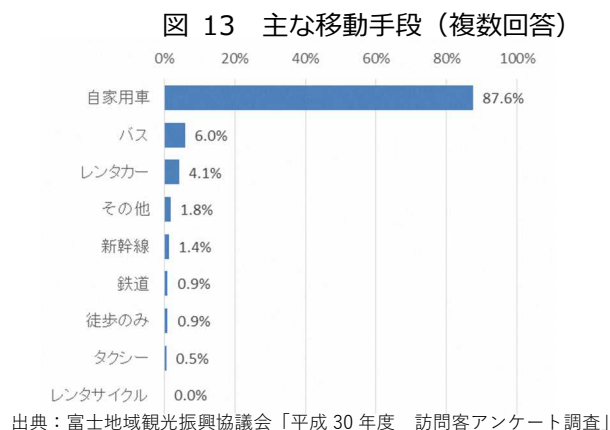
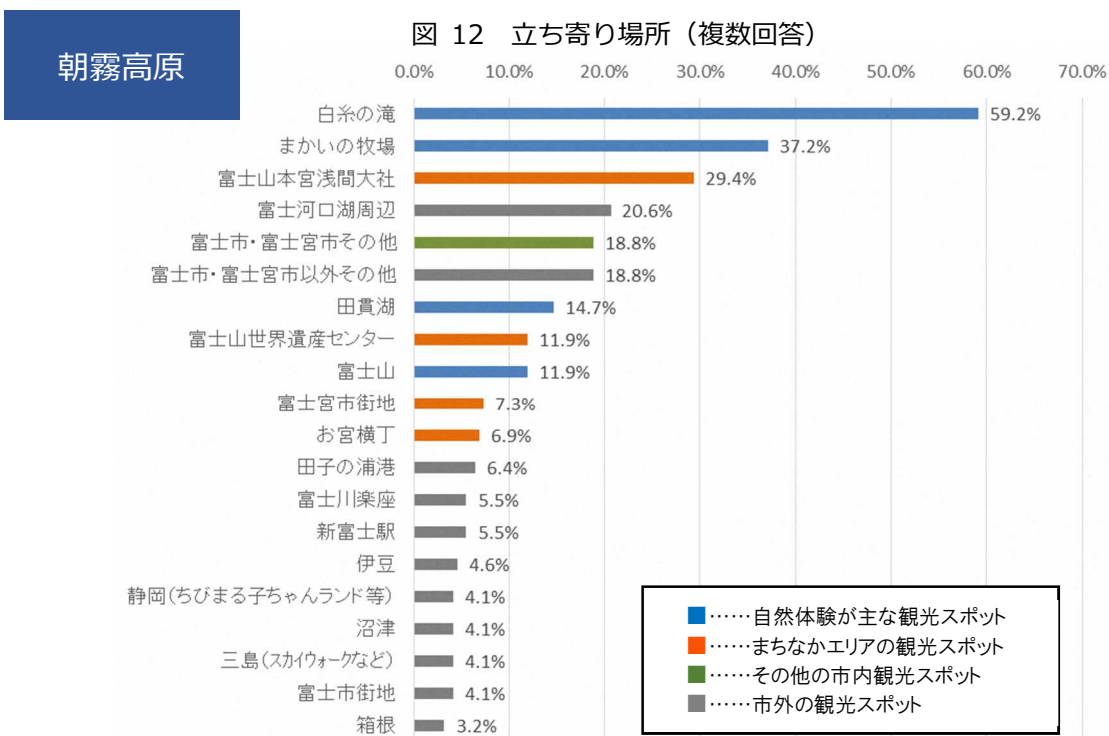


図 14 立ち寄り場所（複数回答）

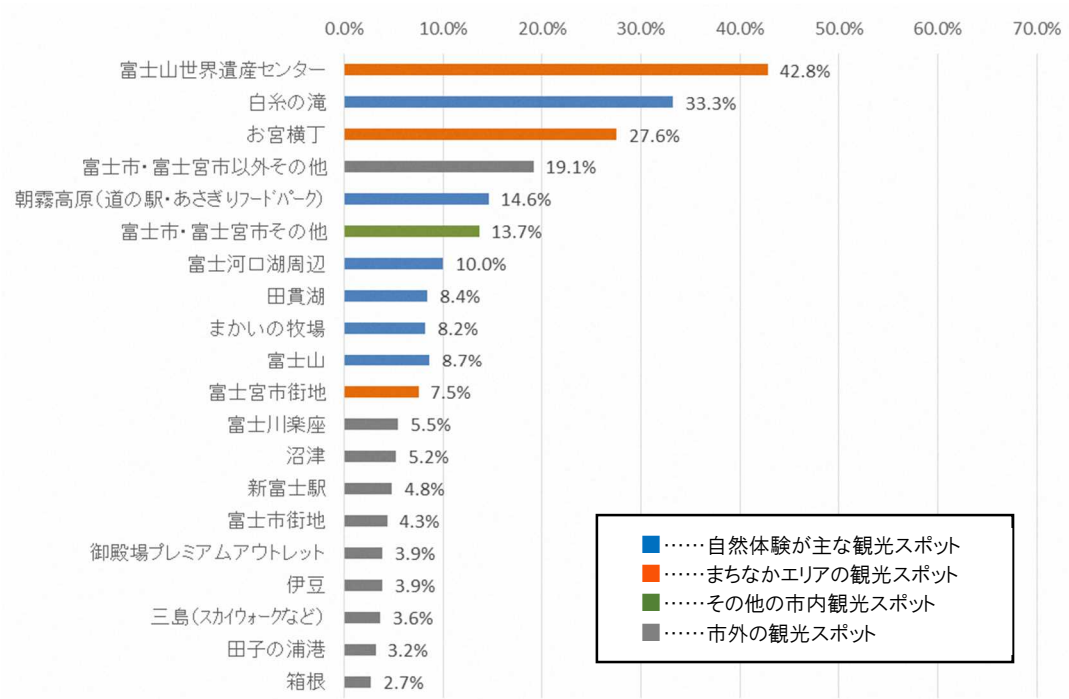
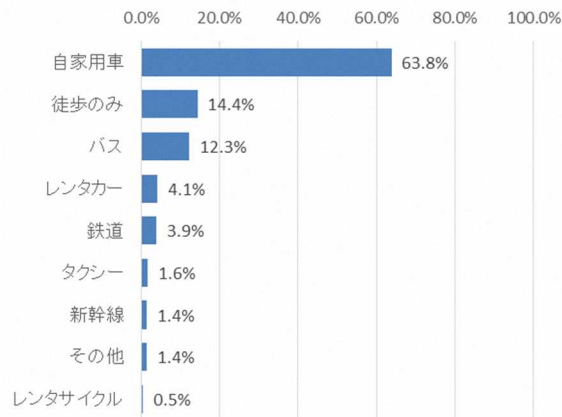


図 15 主な移動手段（複数回答）



出典：富士地域観光振興協議会「平成 30 年度 訪問客アンケート調査」



## ■入込客の消費額

- ・入込客の市内での消費額を日帰り客と比較すると、朝霧高原で4,503円、浅間大社で3,726円となり、朝霧高原の方が高くなっています。お土産代や入場料・体験等に掛かる消費額が、朝霧高原において特に高くなっています。(表3)
- ・消費額を宿泊客と比較すると、朝霧高原で7,059円、浅間大社で8,979円となり、浅間大社の方が高くなっています。朝霧高原はキャンプ等の単価の低い宿泊が多いためと考えられます。(表4)

### 朝霧高原

表3 入込客の消費額 (円)

	日帰り	宿泊
高速代	701	1,666
ガソリン代	317	604
駐車場代	191	84
レンタカー代	0	173
電車代、高速バス代	164	415
飲食店で支払った費用	976	899
コンビニ等で支払った費用	110	277
宿泊費	0	1,427
入場料、体験等	389	176
お土産代	1,560	1,273
その他	95	64
合計	4,503	7,059

出典：富士地域観光振興協議会「平成30年度 訪問客アンケート調査」

### 浅間大社

表4 入込客の消費額 (円)

	日帰り	宿泊
高速代	705	1,107
ガソリン代	164	793
駐車場代	97	162
レンタカー代	11	290
電車代、高速バス代	382	652
飲食店で支払った費用	916	1,595
コンビニ等で支払った費用	162	368
宿泊費	0	2,195
入場料、体験等	219	162
お土産代	950	1,489
その他	120	167
合計	3,726	8,979

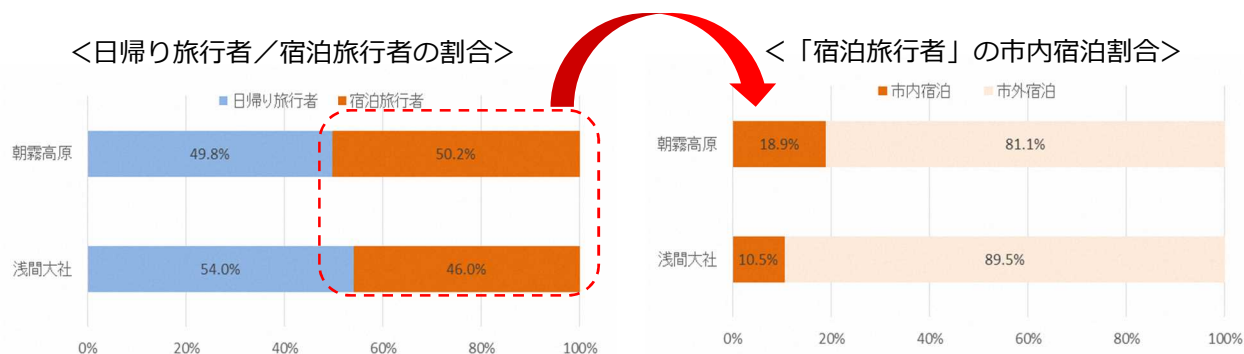
出典：富士地域観光振興協議会「平成30年度 訪問客アンケート調査」

※日帰り/宿泊の区別は、宿泊場所が市内であるか市外であるかに関係なく、その旅行が日帰り又は宿泊を伴うものであるかを示す。また、消費額は、富士宮市内で支払われた額のみから算出しており、市外で支払われた額は含まれていない。

■入込客の市内宿泊の状況

- ・朝霧高原入込客の50.2%、浅間大社入込客の46.0%が宿泊旅行をしています。これら宿泊旅行者が市内に宿泊している割合を見ると、朝霧高原入込客で18.9%、浅間大社入込客で10.5%となっており、朝霧高原の方が倍近い数値となっています（図16）。

図16 入込客の市内宿泊の状況



出典：富士地域観光振興協議会「平成30年度 訪問客アンケート調査」

- ・キャンプ場や牧場、パラグライダーなどのアウトドアを主とした観光を楽しむ朝霧高原エリアの入込客は、富士山本宮浅間大社・静岡県富士山世界遺産センターを核としたまちなかエリアに比べて広域を周遊し、宿泊割合が高い傾向があることから、課題は、その消費額（特に宿泊単価）の向上といえます。そのため、宿泊の高付加価値化、多様化が必要と考えられます。
- ・まちなかエリアの入込客は、参拝客が1月に多いものの、他の時期では朝霧高原エリアに比べて少なくなっています。また、市内周遊や消費も限定的とみられ、消費額を向上させるためには、まちなかにおける周遊促進やお土産・飲食等の高付加価値化等が必要といえます。



キャンプ場



牧場



パラグライダー

## 第2節 前期計画の振り返り

富士宮市が前期計画で定めた内容の実施状況や残された課題を整理します。

### (1) 「エリアごとの着地型観光の推進」に関する事業

エリア	実施状況と課題
朝霧高原 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山西麓地域観光連絡会議、富士山西麓会、朝霧エリア連絡会と連携し SNS や Web サイト等で情報発信している。朝霧エリアの周遊促進という具体的効果を挙げる事が求められる。</li> <li>・民間バス周遊プラン「富士山西麓物語パスポート」、体験イベント「たこたこあがれ in 富士山」などコンテンツ開発が進んでいるが、明確な効果はまだ確認できていない。引き続き E-バイクやキャンプ事業等も進めながら、顧客の獲得・消費拡大という成果につなげることが求められる。</li> </ul>
白糸の滝・ 上野北山 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白糸ノ滝の売店集約化（第1期）完了。引き続き第2期の整備を進め、ハード・ソフト両面の品質を向上させ、満足度・消費額を高めることが求められる。</li> <li>・観光案内所やガイドボランティアを通じて、年間1,643件/4,112人の文化案内を実施。今後は、白糸の滝を情報発信拠点として、市全域での周遊・消費につなげることが求められる。</li> <li>・「狩宿さくらまつり」「上野の里まつり 酒蔵めぐり」「平成棚田祭り」等を通じて桜や酒蔵の情報発信を強化。今後も市内4つの酒蔵のプロモーションなど地域資源の情報発信に力を入れることが求められる。</li> </ul>
富士山 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイキングコースや施設の管理、パンフレットの配布等を行っている。今後は、こうした管理を継続するとともに、宝永山火口縁周遊コースなど多様な登山コースを整備し、登山の魅力を向上させることが求められる。</li> <li>・「世界遺産富士山 in 富士宮シールラリー」（H27年度～）を始め、世界遺産構成資産等を訪れるイベント、ガイド、広報等に取り組んでいる。今後は、構成資産の周知やコンテンツの磨き上げにより、登山以外でも富士山の魅力を味わえる環境づくりに取り組むことが求められる。</li> </ul>
芝川エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「内房たけのこ・桜まつり」、「梅の里稲子まつり」、「柚野の里縄文まつり」など、地域の自然や食をテーマにしたイベントを開催しているが、参加者のほとんどが市民に留まっている。地域ならではの資源を生かし、市外・県外から顧客を呼ぶことが求められる。</li> <li>・「織田信長サミット」に加盟し、H29年度にはサミット開催地として18,000人の来訪者を獲得。今後もこうしたつながりを生かし、歴史・文化を生かした誘客に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

浅間大社・街中エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山本宮浅間大社を核として、祭り（流鏝馬、御神火、富士宮まつり等）、ライトアップ（H30～）、情報案内の充実化（観光ガイドボランティアの会等）、フォトコンテストなどによる情報発信に取り組んでいる。今後は、観光ガイドの拡充や広報強化により、市中心部の魅力向上・周遊滞在につなげることが求められる。</li> <li>・市有地の整備や出店補助金等により、街中に25店舗の新規出店を実現（R元年度末まで）。商店街イベント「まちなかアートギャラリー」では約8,000人（R元年度）の入込客を獲得している。さらに、土産物の開発、特産品フェア、「富士宮バル」等の取組を実施。こうした成果を生かし、今後は、更なる商店街エリアにおける滞在促進・消費拡大の成果を挙げることが求められる。</li> <li>・浅間大社前交差点に歩車分離式信号を導入し、安全性を向上させた。今後は浅間大社から世界遺産センターまでを中心とした案内サインの適正化・維持管理により、観光客の誘導と安全管理に努めていく必要がある。</li> </ul>
------------	--

### （2）「スポーツ・レクリエーション観光の推進」に関する事業

施策	実施状況と課題
誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京五輪チームの合宿誘致、富士山女子駅伝大会でのブース出展による情報発信等に取り組んだが、スポーツイベントと観光振興の連携が十分ではない。今後は、庁内の関連部署との柔軟な連携を行いながら、スポーツを通じた観光消費の向上が求められる。</li> </ul>
受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設の外国人利用環境整備支援（H28～30年度で10施設に適用）や欧米向け着地型旅行商品企画支援（商品化10件）、神田川観光駐車場やトイレ整備等で受入環境を向上させている。</li> <li>・今後は新型コロナウイルスの状況も踏まえた個人旅行者への安全対策や環境整備に力を入れる必要がある。</li> </ul>

### （3）「情報発信の強化」に関する事業

施策	実施状況と課題
情報発信人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ガイドボランティアの活動支援やタクシードライバーの英会話支援等は行っているが、こうした人材を生かした情報発信にまでつながっていない。今後はインターネット等を活用して市の様々な情報を外部に発信できる人材確保や体制構築に取り組むことが求められる。</li> </ul>
全市的な情報発信の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語観光サイト「Explore fujinomiya」の開設や日英併記の足元案内サインの設置（45か所）により外国人受入環境の整備を進めた。今後は、コストを抑えた継続的更新やサイトの利便性向上が課題。また、市内各エリアの情報を一元的に発信する継続的な運営の仕組みづくりも求められている。</li> <li>・セールス・プロモーション活動については、広域観光団体との連携強化を図ってきた。今後も更に連携強化を推進し、顧客獲得の成果につなげることが重要となっている。</li> </ul>

## 第3節 富士宮市の観光振興における課題の総括と今後の方向性

---

### 1 富士宮市観光の抱える課題

#### (1) 市全体としての特徴と課題

- ・富士宮市は、富士山の麓という強みを生かして多くの顧客を呼び込めるポテンシャルがあるものの、十分に目的地化されているとは言えず、市外の周辺観光のついでに立ち寄る地域になっていると見られます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大以降の観光地では、数から質への転換が求められており、自然を楽しむ観光といった新しいニーズへの対応が求められています。
- ・市内入込客の宿泊率は低く、滞在時間も短くなっており、市内消費も低く、旅行時の消費は周辺地域に流れていると推測されます。

#### (2) 観光スタイルごとの特徴と課題

- ・アウトドアを楽しむ朝霧高原エリアでは、市街地に比べて宿泊割合は高いものの、宿泊単価の向上が課題となっています。今後は、自然観光など観光の新しいニーズに応じることで顧客獲得が見込めます。
- ・富士山本宮浅間大社や静岡県富士山世界遺産センターを中心としたまちなかエリアでは、参拝客が多く、ホテルの開業状況等からビジネス出張客の来訪も多いと推測されますが、そうした顧客の周遊・消費はあまりないと見られます。
- ・スポーツ・レクリエーション観光では一定の顧客を獲得しており、宿泊施設との連携等により、より多くの宿泊・消費を促すことができる可能性があります。

#### (3) 計画管理上の課題

- ・市全体としての目標を明確にするとともに、施策体系を整理し、誘客や周遊促進といった成果につながる指標を定めることが求められます。

### 2 富士宮市の観光振興に求められること

#### (1) 市全体として

- ・富士宮市としては、富士山の麓という強みを生かして、観光地として入込客の消費を促すことのできる魅力的で高水準な観光コンテンツを数多く増やすことが求められています。

#### (2) 個々の観光の楽しみを促すために

- ・富士山や朝霧高原を始めとする豊かな自然環境は市内で最も有力な観光資源であり、これを中核として「強い観光地」を形成できる見込みがあるといえます。しかし、現状では、自然環境を舞台とした観光地は十分に目的地化されているとは言えず、消費額も低くなっています。今後は、新しい観光ニーズに応え、顧客の消費を促すことができる、自然を生かした魅力的な観光コンテンツを生み出すことが求められます。

- ・まちなかの観光では、富士山本宮浅間大社や静岡県富士山世界遺産センターの入込客が一定規模あり、宿泊施設が増加しているという状況もありますが、入込客の周遊・消費が少なく、訪れた顧客の周遊滞在を促し、消費を喚起することが求められます。
- ・これらの楽しみ方を促すに当たっては、そのための滞在環境を市全体として向上させることや、二次交通の充実などにより回遊を促進させること、更にはその魅力をプロモーションして積極的に顧客に伝え、呼び込むことも必要となります。

### (3) 計画管理の方法として

- ・富士宮市がどのような観光地を目指すのか、全市的な目標を明確化するとともに、施策の成果を検証できるように成果目標を設定することが求められます。



たこたこあがれ in 富士山



上野の里まつり



富士山・白糸ノ滝テラス



富士山本宮浅間大社ライトアップ

## 第3章 観光振興の進め方

### 第1節 観光振興の目的

本市が観光振興に取り組む目的は、観光地として安定的に顧客を獲得し、その消費を市内全体に波及させることにより、地域経済を持続的に維持・発展させることです。

### 第2節 観光振興の基本的な考え方

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響によって観光産業は大きな打撃を受け、観光地には新たな対応が求められており、この中で、持続的な地域経済に寄与できる観光振興を進めるためには、改めて本市の強みを生かし、課題に対応した取組を進めていくことが求められます。そこで、前章までにおいて整理した本市の強み・課題を踏まえ、本計画では以下の基本的な考え方に基づいて観光振興を進めます。

- ・地域経済の維持・発展へつなげるために、顧客から目的地として選ばれ、訪れた顧客が長く滞在して消費する「滞在型観光地」として、持続可能性のある状態を目指していきます。

- ・「滞在型観光地」を形成するため、本市ならではの観光資源である富士山の麓で育まれた「自然」と「歴史・文化」を活用し、多様で魅力的な観光の楽しみ方を数多く生み出します。

- ・観光の楽しみ方を数多く生み出すに当たっては、主に以下2つに取り組みます。

- ①富士山及びその山麓に広がる高原・湖・河川等の「自然」を目的とした顧客の獲得を促す。

- ②浅間大社界隈（まちなかエリア）の来訪客に周辺の食や特産品などの「文化」、富士山信仰などの「歴史」を楽しんでもらう。

このうち、①の「自然」の楽しみ方の多様化・磨き上げにより力を入れることで、本市を「富士山麓の自然を満喫する滞在型観光地」として広く認知させ、国内外から多くの顧客を呼び込むことを図ります。

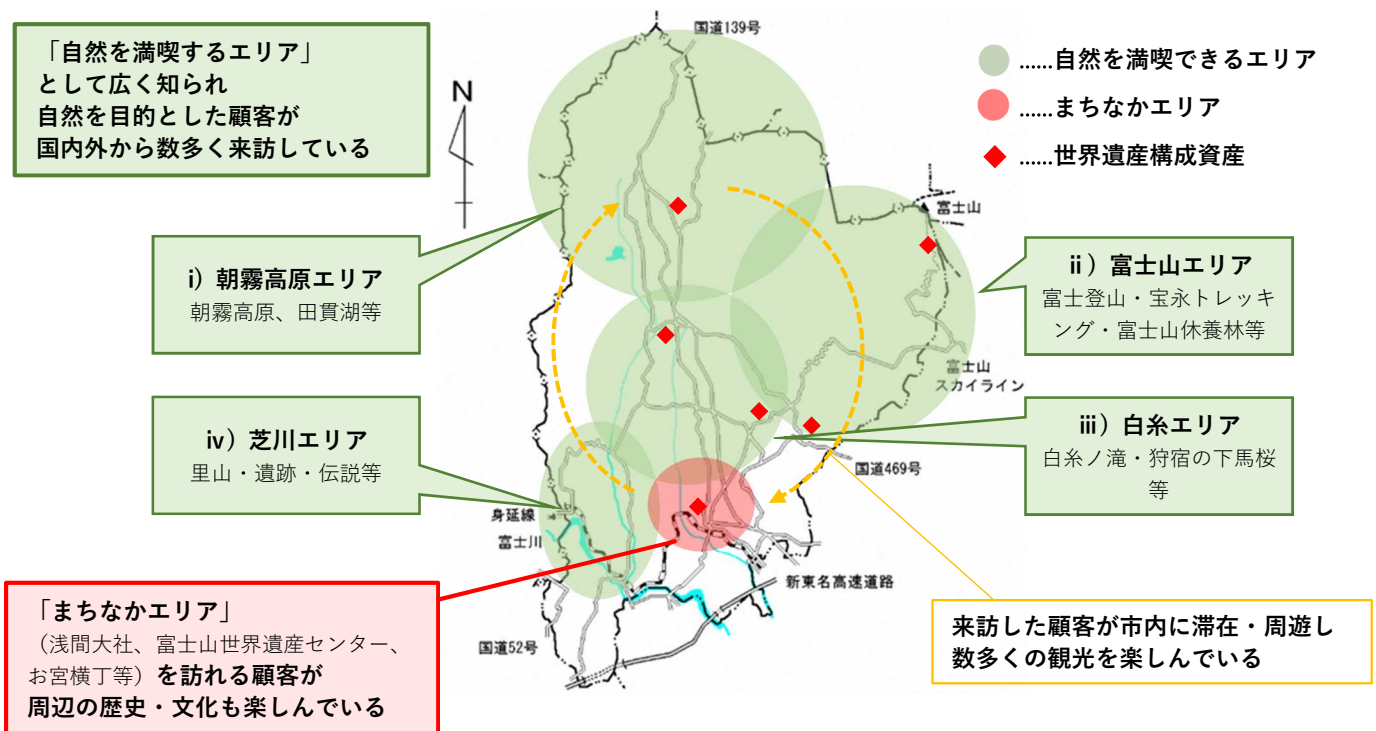
- ・さらに、こうして生み出された数多くの観光の楽しみ方を目的として顧客を地域に呼び込み、その消費を促すために、周遊・滞在の促進にも取り組んでいきます。

- ・ターゲットとする顧客については、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえながら、まずは国内旅行者に重点を置くとともに、今後の回復を見据えて外国人旅行者の受入れについても取り組んでいきます。

## 自然及び歴史・文化資源を生かした「富士山麓の自然を満喫する滞在型観光地」のイメージとエリアの考え方

「自然を満喫するエリア」は、地形的なまとまりや観光資源の特徴等から4つの小エリアに区分し、それぞれのエリアの特性に合わせて多様で魅力的な観光の楽しみ方を生み出していきます。

さらに、「まちなかエリア」及び「自然を満喫するエリア」の両エリアにおける観光消費を促すために、市全体での滞在・周遊の促進に取り組みます。



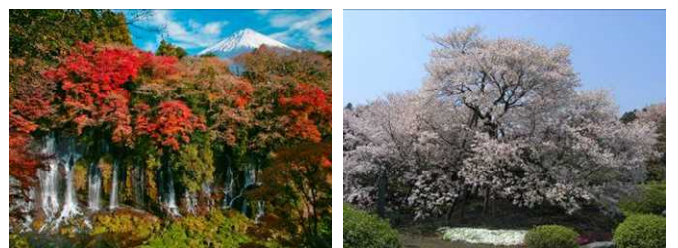
朝霧高原エリア：朝霧高原・田貫湖



富士山エリア：富士登山・宝永火口



芝川エリア：西山本門寺（信長公首塚）・稲子棚田



白糸エリア：白糸の滝・狩宿の下馬桜



### 第3節 計画の目標数値

富士宮市の入込客数は、平成27年度から多少の増減がありますが、宿泊客数は令和元年度まで増加傾向を続けており、令和2年度には新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入込客数・宿泊客数共に大きく減少しました。

第3次富士宮市観光基本計画の目標数値と比較すると、入込客数は、631万人（令和2年度目標数値）に対して361万人と新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少しました。宿泊客数は、平成27年以降市街地への宿泊施設が増え、キャパシティが増加したこともあり、21万人（令和元年度目標数値）に対して28万人と目標を大きく達成しましたが、令和2年度には16万人へ減少しています。

このような現状を踏まえ、本計画の推進を図るための数値目標を、次のように定めます。

#### 目標数値

	現状値（令和元年度）	目標値（令和7年度）
観光入込客数	593万人	666万人
宿泊客数	28万人	32万人

#### エリアごとの観光入込客数の目標値

	現状値（R1）	目標値（R7）	
朝霧高原エリア	225万人	253万人	田貫湖周辺、朝霧高原周辺、富士養鱒場、ゴルフ場
まちなかエリア	173万人	194万人	浅間大社周辺
白糸エリア	49万人	55万人	白糸の滝、山宮周辺
芝川エリア	1万人	1.2万人	芝川周辺
富士山エリア	26万人	29万人	富士山五合目、登山客、村山周辺
その他市全域	119万人	133.8万人	入浴施設、産業観光、宿泊客、やきそば店、イベント
合計	593万人	666万人	



まちなかエリア：静岡県富士山世界遺産センター・お宮横丁

## 第4節 多様で魅力的な観光の楽しみ方を生み出す具体的な方法

### (1) どのような楽しみ方を生み出すか

- ①自然を活用した楽しみ方としては、富士山を舞台にした登山・トレッキング、高原や河川等を舞台にしたE-バイクやラフティングなどのアクティビティ、景勝地や里山を舞台にした散策・滞在等の充実に力を入れます。
- ②歴史・文化資源を活用した楽しみ方としては、富士山本宮浅間大社を核とした世界遺産富士山やそれに関連する歴史を生かしたガイド等、また、市街地等での食・土産・体験等の充実に力を入れます。

観光資源	エリア	アクティビティや体験などの生み出す「楽しみ方」
①自然	富士山エリア	富士登山、富士下山、原生林などの周辺トレッキング
	朝霧高原エリア 芝川エリア	高原、田貫湖などでのキャンプやパラグライダー、富士川でのラフティング、E-バイク、ゴルフ
	白糸エリア 芝川エリア	白糸ノ滝や里山などアウトドアの散策、眺望や自然環境を楽しむ滞在空間
②歴史・文化	まちなかエリア	富士山本宮浅間大社を中心とした歴史ガイドや世界遺産センターを起点にした各世界遺産構成資産周遊、まちなかの回遊
	朝霧高原エリア まちなかエリア 白糸エリア 芝川エリア	特産品料理、地酒、祭り、養鱒などを生かした食・土産・体験など

### (2) 楽しみ方を生み出すに当たっての方針

#### ①自然

##### I) 幅広いバリエーションの楽しみ方をつくる

特定の楽しみ方に特化せず、本格登山からファミリーでのゆっくりとした滞在まで、また、冬季や雨天時も含めて、様々な楽しみ方ができるようにバリエーションを増やします。

##### II) 価値を高めるサービスを充実させる

自然コンテンツの多様化と並行して、滞在しやすい宿泊プランや滞在中の飲食サービス等を充実させ、自然コンテンツの価値を高め、誘客・滞在長期化につなげます。

#### ②歴史・文化

##### I) 富士山本宮浅間大社周辺でのプラスアルファの消費を促す

浅間大社界隈（まちなかエリア）とその周辺（市街地の商店街から、少し距離の離れた郊外まで）を中心として、訪れる参拝客やビジネス出張客といった顧客のプラスアルファの消費を促せるコンテンツを充実させます。

## II) 浅間大社界隈を起点とした周遊しやすい環境をつくる

浅間大社界隈を訪れた顧客に、その周辺でも様々な観光を楽しんでもらえるように、周遊促進に取り組みます。

### (3) 楽しみ方を生み出すことと並行して取り組むこと

#### ①自然の魅力を生かしたプロモーション・コンベンション

富士山の眺望や高原などの地形といった自然資源、また、それらを生かして開発した自然コンテンツの魅力を通じて、富士宮市の「富士山麓の自然を楽しむ滞在型観光地」としての認知につなげるために、プロモーション活動やスポーツ合宿・大会、観光ウォーキング事業等を中心としたコンベンション活動を積極的に行います。

#### ②自然を楽しむための基盤づくり

将来にわたってコンテンツが楽しめるよう、地域資源の持続可能な利用を促します。

また、景観形成や市民意識の啓発、朝霧高原エリアとまちなかエリアの周遊促進等を通じて、「自然を楽しむ滞在型観光地」としての機運・空間を形成していきます。

さらに、快適に自然の魅力を楽しめるように、富士山五合目周辺などの観光地における環境整備や、トイレや駐車場等の利便性の向上を図ります。



ラフティング



バギー



キャンプ



サイクリング

## 第5節 施策の体系

本計画は、以上に示した考え方を踏まえて、まず、「自然の楽しみ方の多様化と磨き上げ」「歴史・文化を生かした消費・周遊の促進」という2つの政策によって、多様で魅力的な観光の楽しみ方を生み出します。

さらに、このことと合わせて、「自然の魅力を生かしたプロモーション・コンベンション」「自然を楽しむ滞在型観光地としての基盤づくり」という2つの政策を進め、誘客と消費向上を後押しします。

政策	施策の柱	施策
1 自然の楽しみ方の多様化と磨き上げ	(1)様々なバリエーションによる自然の楽しみ方の創出	① 自然を楽しむ観光資源の発掘と磨き上げ
		② 年間を通じて楽しめる自然体験の充実
		③ 広域連携による自然体験の創出
		④ 様々な自然の楽しみ方を提案・提供できる体制の拡充
	(2)自然を楽しむ価値を高めるためのサービスの充実	① 宿泊施設による滞在型観光の充実と支援
		② 自然と共に楽しめる飲食サービスの拡充
2 歴史・文化を生かした消費・周遊の促進	(1)歴史・文化を生かした様々な楽しみ方の創出	① 歴史・文化資源の発掘と活用促進
		② 自然資源と歴史・文化資源の融合
		③ 歴史・文化を伝える担い手の育成
	(2)富士山本宮浅間大社周辺を起点とした周遊促進	① 浅間大社周辺の徒歩で観光しやすい空間づくり
3 自然の魅力を生かしたプロモーション・コンベンション	(1)「自然を楽しむ滞在型観光地」としてのプロモーション	① ICTの活用や各種媒体を通じた誘客・プロモーション
		② 海外顧客に向けた誘客・プロモーション
		③ 広域連携による誘客・プロモーション
	(2)スポーツ観光等によるコンベンションの推進	① スポーツ大会及びスポーツ合宿の誘致・開催
		② その他のコンベンション活動
4 自然を楽しむ滞在型観光地としての基盤づくり	(1)自然資源の持続可能な利用の推進	① 自然資源の利用ルールの設定と顧客への周知
		② 利用の分散化・平準化によるオーバーツーリズムの抑制
	(2)自然を楽しむ観光地としての機運・空間の形成	① 自然に親しみやすい景観の形成
		② 市民に向けた自然を楽しむ機運の醸成
		③ 高原から市街地まで周遊の促進
	(3)快適に自然の魅力を楽しめる環境整備	① 自然を楽しむためのハード整備
		② 環境負荷を抑制した移動の推進
		③ 観光客のリスクマネジメント

## 第4章 計画における施策の展開

### 政策1 自然の楽しみ方の多様化と磨き上げ

#### (1) 様々なバリエーションによる自然の楽しみ方の創出

施策	取組	主なエリア
① 自然を楽しむ観光資源の発掘と磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山シーズン以外でも楽しめる富士山五合目からの山麓周辺への下山ルートの活用を推進します。</li> <li>・様々なアクティビティを融合させ、長時間滞在できる観光商品の造成を支援するとともに、その魅力を発信します。</li> <li>・登山やハイキング、自然を楽しむアクティビティなど各種コンテンツの開発や価値を高めるための取組を支援します。</li> <li>・朝霧高原等の自然エリア周辺におけるキャンプ場設置を推進し、幅広い層に対応するキャンプの魅力を発信します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・富士山エリア</li> <li>・芝川エリア</li> </ul>
② 年間を通じて楽しめる自然体験の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季キャンプや屋内体験プログラム等の充実を図る取組を支援します。</li> <li>・白糸ノ滝を核とし、周辺エリアにおいて季節にかかわらず楽しめる様々な観光の充実と回遊性を高めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・白糸エリア</li> </ul>
③ 広域連携による自然体験の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山西麓地域の広域観光振興団体と連携し、周遊バスを活用した体験型周遊プランを創出するなど観光誘客活動を実施します。</li> <li>・富士地域の広域観光振興団体と連携し、広域的なサイクリングルートづくりの研究を行います。</li> <li>・富士山自然休養林コースを維持管理する団体と連携し、休養林コースを活用した広域周遊の促進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・富士山エリア</li> </ul>
④ 様々な自然の楽しみ方を提案・提供できる体制の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会や観光ガイドボランティアの会を軸とした観光情報の集約化と情報発信や案内など利便性の向上を図ります。</li> <li>・浅間大社周辺、世界遺産構成資産、白糸の滝周辺、富士登山などのガイドやインストラクター等の人材育成と継承への取組を促します。</li> <li>・環境省が推進する富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクトに連携して取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全エリア</li> </ul>

## (2) 自然を楽しむ価値を高めるためのサービスの充実

施策	取組	主なエリア
① 宿泊施設による滞在型観光の充実と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル及びキャンプ場の誘致を推進することで、国内外から観光誘客を進めるとともに、多様な宿泊プランの開発を支援します。</li> <li>・富士宮市ホテル旅館料理組合等と連携し、宿泊施設の利用促進と宿泊客数の増加を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・まちなかエリア</li> </ul>
② 自然と共に楽しめる飲食サービスの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の自然や特徴を生かしたお土産・特産品等の開発や、朝霧高原等での高級料理メニュー開発などを支援します。</li> <li>・道の駅「朝霧高原」のテラス席等を活用し、自然と食を楽しむ環境を整えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> </ul>

### 【主要な事業】

- ・観光誘客活動事業
- ・宿泊施設等誘致事業
- ・富士登山推進事業
- ・富士地域観光振興協議会事業
- ・富士山西麓地域観光連絡会議事業
- ・富士宮市観光協会、観光ガイドボランティアの会補助事業
- ・食のまちづくり推進事業



大河ドラマゆかりの地啓発事業 ラッピングバスとパッカー車



富士宮やきそば



内房のたけのこ

## 政策 2 歴史・文化を生かした消費・周遊の促進

### (1) 歴史・文化を生かした様々な楽しみ方の創出

施策	取組	主なエリア
① 歴史・文化資源の発掘と活用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や伝統あるお祭りの開催を通じた観光誘客を検討します。</li> <li>・歴史・文化を楽しめるガイドツアー等の開発を支援します。</li> <li>・富士宮やきそばなどの地域特産品の磨き上げや、特産品を生かした新たな飲食メニュー・お土産の開発を支援します。</li> <li>・大河ドラマゆかりの地としての資源を活用した観光誘客を進めます。</li> <li>・郷土の歴史・文化の保存・管理・展示を通じて、地域の魅力向上に資する博物館を整備し、本市の魅力を市内外に発信します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・白糸エリア</li> <li>・芝川エリア</li> <li>・まちなかエリア</li> </ul>
② 自然資源と歴史・文化資源の融合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山信仰への理解を深めたり、伝統的な登山スタイルを楽しんだりする富士宮ならではの登山・トレッキングを推進します。</li> <li>・世界遺産構成資産を生かした広域周遊の観光コンテンツ開発を支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・富士山エリア</li> <li>・白糸エリア</li> <li>・まちなかエリア</li> </ul>
③ 歴史・文化を伝える担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化ガイドや案内人を育成します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全エリア</li> </ul>

### (2) 富士山本宮浅間大社周辺を起点とした周遊促進

施策	取組	主なエリア
① 浅間大社周辺の徒歩で観光しやすい空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山本宮浅間大社と富士山世界遺産センターを核として、観光関連団体と連携してまちなかの回遊性を高め、周遊促進を図ります。</li> <li>・神田川の清流の美を生かした空間の創出に取り組みます。</li> <li>・神田川周辺や商店街への観光客の回遊の促進と動線の検討を行います。</li> <li>・ライトアップの実施等によるソフト面での周遊促進を図ります。</li> <li>・案内サインの整備等によるハード面での周遊促進を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかエリア</li> </ul>

#### 【主要な事業】

- ・富士山まつり推進事業
- ・大河ドラマゆかりの地啓発事業
- ・世界遺産構成資産環境整備事業
- ・史跡大鹿窪遺跡整備事業
- ・（仮称）郷土史博物館事業
- ・富士山世界遺産センターから富士山本宮浅間大社までの参道軸創出事業
- ・まちなかエリアライトアップ事業
- ・案内サイン等整備事業

### 政策3 自然の魅力を生かしたプロモーション・コンベンション

#### (1) 「自然を楽しむ滞在型観光地」としてのプロモーション

施策	取組	主なエリア
① ICTの活用や各種媒体を通じた誘客・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTや自然体験と親和性の高いSNS、動画、インフルエンサー、マスメディア等を活用したプロモーションに取り組みます。</li> <li>交通事業者等と連携し、都市部からの誘客のためのプロモーションに取り組みます。</li> </ul>	・全エリア
② 海外顧客に向けた誘客・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行事業者へのセールス、観光展、大型観光キャンペーンへの参加などによる海外プロモーション活動に取り組みます。</li> <li>ファムトリップ、モニターツアー等を実施し、アフターコロナに向けた観光誘客に取り組みます。</li> </ul>	・全エリア
③ 広域連携による誘客・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域連携組織や県等と連携し、自然体験を満喫できる観光地としての誘客活動に取り組みます。</li> <li>登山やアウトドアレジャーに関係するメーカー等との連携を検討し、自然を楽しめる観光地としてのイメージ向上に努めます。</li> </ul>	・全エリア

#### (2) スポーツ観光等によるコンベンションの推進

施策	取組	主なエリア
① スポーツ大会、スポーツ合宿の誘致・開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際大会、全国大会などの誘致・開催に取り組みます。</li> <li>スペイン空手道連盟の事前合宿受入れで得た経験を生かし、スポーツ合宿等を積極的に誘致・開催します。</li> <li>計画的にスポーツ施設の整備・修繕などを行うとともに、施設の有効活用を図ります。</li> </ul>	・全エリア
② その他のコンベンション活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ・レクリエーション情報の集約を図り、一元的な情報発信に取り組みます。</li> <li>世界遺産富士山の構成資産や観光資源を生かした観光ウォーキングなどを推進します。</li> <li>ゴルフ場と連携し、富士山麓の自然や都市部とのアクセスの良さを生かした誘客活動に取り組みます。</li> <li>豊かな自然を生かしたワーケーションやオフサイトミーティング等を推進します。</li> </ul>	・全エリア

#### 【主要な事業】

- ・観光誘客活動事業
- ・外国人誘客事業
- ・スポーツ大会誘致事業
- ・スポーツ観光レクリエーション事業



## 政策4 自然を楽しむ滞在型観光地としての基盤づくり

### (1) 自然資源の持続可能な利用の推進

施策	取組	主なエリア
① 自然資源の利用ルールの設定と顧客への周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士登山ナビゲーターを設置し、登山者に対して登山マナーやルールを周知します。</li> <li>・自然保護団体と連携した自然環境の保全や自然環境保全意識の高揚、自然監視員による監視・指導の強化を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・富士山エリア</li> <li>・白糸エリア</li> <li>・芝川エリア</li> </ul>
② 利用の分散化・平準化によるオーバーツーリズムの抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィズコロナ、アフターコロナ時代の富士登山の在り方の検討や新しい富士登山マナーの周知を図ります。</li> <li>・ハイシーズンや人気スポット以外での観光コンテンツ開発や誘客の取組を積極的に支援し、利用の分散化・平準化を促進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・富士山エリア</li> </ul>

### (2) 自然を楽しむ観光地としての機運・空間の形成

施策	取組	主なエリア
① 自然に親しみやすい景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湧玉池、神田川等の自然環境を守るとともに、まちなかの湧水や小水路などを生かしたやすらぎの景観づくりを進めます。</li> <li>・ホタルの保護・育成を通じた自然環境保全活動の取組を支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全エリア</li> </ul>
② 市民に向けた自然を楽しむ機運の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海自然歩道を活用した観光ウォーキング等や、鮎の放流など自然を楽しむためのイベントを開催します。</li> <li>・啓発活動の充実や市民優待による自然観光の促進、自然アンバサダーの育成などに取り組みます。</li> <li>・富士山をいつまでも美しくする会など市民が取り組む活動を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全エリア</li> </ul>
③ 高原から市街地まで周遊の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・E-バイクを始めとする自転車の利用環境の充実と利用促進を図り、市内回遊の創出に取り組みます。</li> <li>・各エリアでの相互の情報案内や、バス・タクシー等の利用促進等を通じて、観光客のための二次交通の充実を検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・芝川エリア</li> <li>・白糸エリア</li> <li>・まちなかエリア</li> </ul>

### (3) 快適に自然の魅力を楽しむ環境整備

施策	取組	主なエリア
① 自然を楽しむためのハード整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地における公衆トイレや駐車場等の観光施設を適切に管理しながら、利便性の向上を図ります。</li> <li>・白糸ノ滝周辺の整備を進めます。</li> <li>・田貫湖キャンプ場北サイトに園地、観光バス駐車場等を整備します。</li> <li>・芝川地区の観光拠点施設として、新稲子川温泉ユース・トリオの整備を進めます。</li> <li>・富士宮市の北の玄関口として、道の駅「朝霧高原」の機能強化及び整備を進めます。</li> <li>・静岡県が進める富士山五合目来訪者施設の整備に協力するとともに、整備までの間の対策に取り組めます。</li> <li>・静岡県が進める静岡県猪之頭公園の整備に協力します。</li> </ul>	・全エリア
② 環境負荷を抑制した移動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・E-バイクの利用促進や自転車ルート等の整備など、「富士宮市自転車活用推進計画」に基づき自転車を活用した観光誘客を推進します。</li> <li>・富士山の環境保全のため、関係機関と連携しながらマイカー規制を継続して実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝霧高原エリア</li> <li>・白糸エリア</li> <li>・芝川エリア</li> <li>・富士山エリア</li> </ul>
③ 観光客のリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国や県と連携し、富士山防災対策に取り組むとともに、台風、地震、土砂災害等への対応を図ります。</li> </ul>	・全エリア

#### 【主要な事業】

- ・富士登山推進事業
- ・富士山ナビゲーター設置事業
- ・東海自然歩道管理事業
- ・白糸ノ滝環境整備事業
- ・田貫湖キャンプ場北サイト整備事業
- ・富士山五合目整備事業
- ・E-バイクを活用した観光誘客活動事業



道の駅朝霧高原



神田川観光駐車場トイレ

## 第5章 計画の推進体制と進捗管理

### 第1節 計画の推進体制

---

本計画の中心的な政策となっている、多様で魅力的な観光の楽しみ方を生み出すことに当たっては、観光コンテンツを顧客に販売する民間の観光事業者や各種業界団体等が最も重要な役割を担います。また、観光協会等の観光支援組織は、こうした民間の活動をプロモーション等でサポートします。

富士宮市は、第4章に示した施策を踏まえ、年度ごとに行う事業を設計し、自ら実施主体となる事業を実施するとともに、適宜関連部署や関連主体等の実施や協力を促しながら、計画に定めた各事業を推進していきます。

### 第2節 計画の進捗管理

---

計画の進捗管理は富士宮市が行います。

第3章に定めた目標数値は、毎年度末に取りまとめ、達成状況が芳しくないなどの状況があれば、翌年度以降の実施事業内容の見直しを図ります。



日本一のE-バイクのまちの推進

## 富士宮市産業振興部観光課

〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地

TEL : 0544-22-1155 FAX : 0544-22-1385

E-mail : [kanko@city.fujinomiya.lg.jp](mailto:kanko@city.fujinomiya.lg.jp)

<http://www.city.fujinomiya.lg.jp/>